



## アシタバペーストの開発 ～酵素を用いた新たなペースト～

伊豆諸島の農産物を代表するアシタバ（写真1）は、生鮮食品以外にもさまざまな食品に加工されています。しかし、これらの製品においてアシタバの特徴ある風味をより活かすためには、加工時において改善の余地があると思われました。そこで、食品技術センターでは、「アシタバの特徴ある風味に富んだ食品の開発」を目指し、菓子や麺類などを加工する際に利用できる“アシタバペースト”の開発を行いました。

ペースト化には、成分、風味、色調の保持が期待できることから、既に多くの農産物において利用されているペクチン分解酵素処理技術を用いました。ペーストの調製方法を検討した結果、図1に示す工程により、色調（緑色）の保持に効果がみられ、かつ粒度の小さい滑らかなペーストになることが分かりました。また、この方法は大規模な設備を導入する必要がなく、容易にペーストを調製することが可能です。

現在、この酵素処理ペーストを用いたアイスクリーム（写真2）、パスタ等を試作しております。

（食品技術センター）

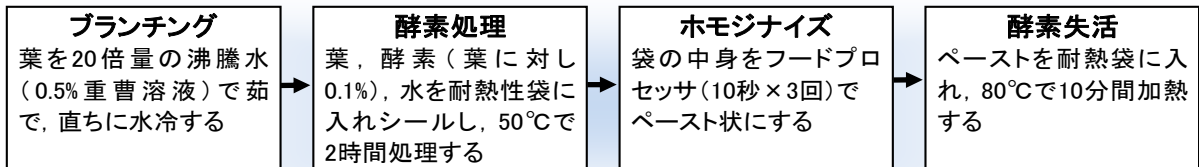


図1 酵素処理技術を用いたアシタバペーストの調製方法



写真1 アシタバ  
(上段：畑、下段：生鮮品)



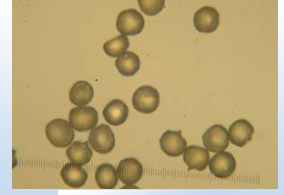
写真2 アシタバペーストを添加した  
アイスクリーム

## ～関東型無花粉スギの育成～ スギ花粉症対策に向けて

今年もスギの花粉が飛散する時期がやってきました。夏が涼しかった翌年は花粉の飛散量が減るということで、今年は例年に比べてスギ花粉は少ないようです。しかし、首都圏では3.5人に1人という割合で花粉症患者が存在しており、花粉が少ないとは言え今年も多くの方が苦労しています。

実は、全てのスギが花粉を出しているわけではありません。花粉が形成されない“無花粉スギ”がいくつか発見されています。これらは自然界に普通に存在しており、屋久杉のなかにもあるといわれています。現在、各地で発見された無花粉スギをもとにして、全国の研究機関が協力し、それぞれの地域に向く無花粉スギを育成中です。花粉に悩まされないさわやかな春を誰もが迎えられる日をめざしています。

(園芸技術科)



スギの花粉



スギの雄花

## ～都内農産物の安全性確保のために～ 農薬の正しい使用をお願いします

農薬には全て使用基準が定められており、この基準に従って正しく農薬を使用すれば、残留農薬基準を超えて農薬成分が残留することは起こりません。農産物の残留基準には厚生労働省が定めた「残留農薬基準」があり、現在799の農薬について農産物の品目ごとに値が設定されています。輸入の農産物などでは時折この基準値を超える例が見られ、ここ2～3年でも違反事例がありました。いずれも、産地での誤った農薬の使用方法が原因と考えられています。

都内の農産物に関しては、農林総合研究センターでも安全性調査を実施しているところですが、誤った農薬の使用が農産物への高い残留値となって現れる場合も想定されます。市販の農薬にはラベルに使用基準が必ず記載されていますので、農薬を購入された方は、ラベルの記載内容を熟読し、正しく農薬を使用していただくようお願いします。

(生産環境科)



農薬のラベルに記載されている使用基準

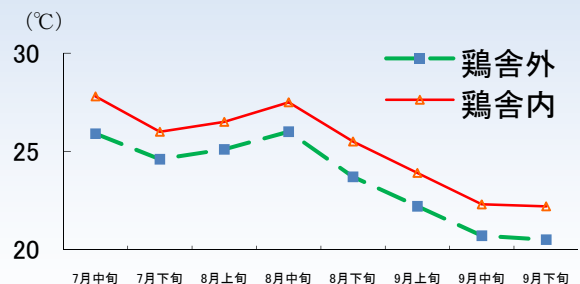
## ～畜舎にも緑のカーテンを～ 夏の鶏舎は暑いのです!!

暑熱ストレスは、畜産物の生産性を低下させます。特に採卵鶏では、27℃以上で産卵率は著しく低下し、35℃以上では死亡率が急上昇することが知られています。そこで、実際に鶏舎内外での温度差を測定したところ、2℃の温度差があることがわかりました。調査を実施した平成21年は例年と比較して冷涼でしたので、例年では鶏舎内の環境はさらに厳しいことが予想されます。農林総合研究センターでは、緑化技術の活用などにより鶏舎内の温度環境を緩和し、暑熱期の鶏卵生産性向上のための試験を実施しております。

(畜産技術科)



鶏舎外観イメージ



平均気温の推移



～種苗登録出願中～

## 東京オリジナル品種 キウイフルーツ「東京ゴールド」



「東京ゴールド」の果実（左：外観，右：断面）

このたび、園芸技術科・果樹研究チームは、キウイフルーツ「東京ゴールド」を登録出願しました。

現在、都内では約20haの圃場で年間200トンのキウイフルーツが生産され、その主な品種は果肉が緑色で酸味が強く俵型をした「ハイワード」です。

「東京ゴールド」は、酸味が弱く糖度が高く果肉が黄色い、やや大玉のキウイフルーツです。形は逆釣鐘型（逆涙型）で、未追熟での冷蔵貯蔵性も高く、クリスマス・年末の販売も可能です。

（園芸技術科）



収穫期の「東京ゴールド」

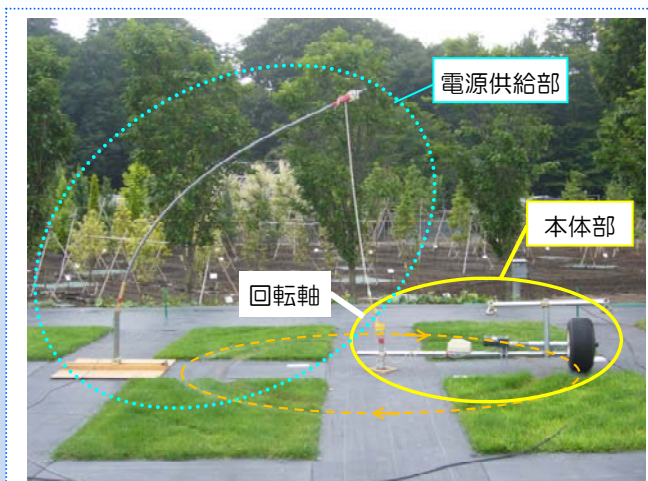
～実用新案を登録しました～

## 校庭芝生化の助っ人「芝生踏圧負荷装置」！

緑化森林科・植木研究チームでは、都の重要施策「校庭の芝生化の推進」に関する試験研究課題に取り組んでおります。

この研究では、試験圃場にて児童の踏圧を再現する必要がありました。これまでは、人による足踏みやトラクターなどを用いた例はあるのですが、あまり実用的なものではありませんでした。そこで、一定量の負荷を効率よく掛けることのできる装置を開発しました。この装置は、タイヤが回転することにより子供が芝生上を歩くことを擬似的に再現する物です。旋回運動をさせることで、タイマーと併用して自動運転が可能となります。この装置を使って色々な条件での試験設計が可能となり、校庭芝生化研究の推進に大いに役立ちました。

（緑化森林科）



電源供給部

本体部

回転軸

システムの外観



踏圧負荷のイメージ

## 平成22年度 科学技術週間のお知らせ

### 施設公開 (立川)

4月14日  
(水曜日)

開催日:平成22年4月14日(水)  
開催時間:10:00~16:00  
開催内容(当日受付・無料):園芸教室(植木・花き・野菜・果樹),  
研究室見学ツアー, 圃場案内ツアー  
開催場所:東京都農林総合研究センター (立川)  
〒190-0013 東京都立川市富士見町3-8-1  
JR中央線立川駅南口より西武バス立川駅北口行き10分  
「農業試験場前」下車または, JR青梅線西立川駅より徒歩7分  
お問い合わせ先:042-528-5216 研究企画室



### 春の家畜ふれあいデー (青梅)

4月10日  
(土曜日)

毎年,多くの人で賑わう“春の家畜ふれあいデー”が今年も科学技術週間の一環として青梅庁舎で開催されます。

開催日:平成22年4月10日(土)  
開催時間:9:30~15:00

催し物(当日受付):  
家畜とのふれあい  
搾乳体験  
乳牛のコンテスト  
東京農畜産物販売会(売り切れ次第終了)  
のらぼう菜の摘み取り(なくなり次第終了)

開催場所:(公財)東京都農林水産振興財団青梅庁舎  
〒198-0024 東京都青梅市新町6-7-1  
JR青梅線小作駅東口より西東京バス三ツ原循環で約10分  
「平松北」下車徒歩3分  
お問い合わせ先:0428-31-2171 青梅庁舎



### 施設公開 (江戸川)

公開日:4月12日(月)~16日(金) 開催時間:10:00~16:00  
開催場所:東京都農林総合研究センター 江戸川分場  
〒133-0073 東京都江戸川区鹿骨1-15-22  
JR総武線新小岩駅南口より京成バス(4番)で15分「農業試験場」下車  
お問い合わせ先:03-3679-1458 江戸川分場



(発行者)東京都農林総合研究センター 保科次雄

公益財団法人 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター

〒190-0013 東京都立川市富士見町3-8-1 TEL 042-528-5216 FAX 042-523-4285

<http://www.tokyo-aff.or.jp/center/index.html>

皆様からのご意見・ご質問・ご要望をお待ちしております。